

筑波大学新聞

第318号

編集責任 筑波大学新聞 編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040-6699
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

出前公開講座	5輪メダリストが授業	2
おわびと検証	前号の紙面について	6
男子バスケット	61年ぶりの大学日本一	8
剣道	竹ノ内全日本選手権で優勝	9
TDP	被災地にどんぐりを送ろう	10
3K棟	BBCニュース放映	11
	三特集	3
	多くの学生が「ぼっち」恐れる	
	特集	6,7
	「リケジョ」の未来を問う	

学生が授業を「変革」

教員を公募 シラバスも作成



岡山大の試み

2012年8月、立命館大学(京都府)では、学生と教員の議論が白熱していた。テーマは、どうすれば学生が積極的に大学の授業に参加できるかだった。さまざまな意見が出た。「授業内容について授業中、学生の議論の場を設けるのはどうか」と話す学生。別の学生は、SNSの使用を提案した。授業中に学生が授業への意見をSNSで発信。内容に対し教員が感想を述べる。さまざまな学生の意見を、即座に授業に反映させるアイデアだった。「学生FDサミット」。

2012夏。会場には、各大学の学生・教職員約430人が集まっていた。目的は、大学の教育改善だった。FDとはFaculty Developmentの略。大学教員の教育能力の向上や、授業内容の改善などを指す。米では1970年代に発足した運動で、日本でも文部科学省が推進。今では一般化した授業シラバスの作成や授業評価アンケートなどはその成果だ。だが、授業内容の改善を教員だけで話し合うのは不十分だ。「学生FDサミット」は09年から年に2回開催。学生が企画し、大学職員が参加する。成果は生まれつつある。今年、東洋大学(東京都)で行われたサミットでは、岡山大学が、同大学で03年から開講する「学生発案型授業」について発表した。学生にどんな授業を受けたかを調査し、学生が作った授業案をもとに教員の公募を行う。この上で、シラバスの作成から成績評価の方法まで学生と教員が一緒に考えるもので、参加者の注目を集めた。

共用浴場 赤字数百万か

学生生活課 「値上げはしない」

平成25年度に今年度から追越、一の矢地区の共用浴場が廃止になった問題で、廃止になった2つの浴場と現在運用中の平砂地区の共用浴場で昨年度、多額の赤字が出ていたことが分かった。筑波大学は赤字を公表していないが、本紙の推計では赤字額は数百万円に上るとみられる。同浴場は今年度も赤字となる可能性があり、学生生活課は「浴場をなげきながら経営は民間業者に委託されている」と話している。

学生生活課によると、宿舎にコインシャワーが整備された平成21年度ごろから利用者が激減。経営が悪化し、昨年の9月に業者が大いに撤退を求めた。大学側は継続を求めたが、追越・一の矢地区で廃止が決定。さらに平砂地区は消費税増税のため、今年度から利用料金を170円から180円に値上げし、営業時間も短縮された。

蹴球部2部降格



降格が決まり、うなだれる筑波大選手 (11月15日、中央大戦で)

関東大学サッカー部リーグの最終節が11月15日に古河市立古河サッカー場(茨城県古河市)で行われ、筑波大は中央大に1-2で惜敗した。筑波大は降格圏の11位に順位を落とし、戦後初の2部降格が決まった。来季は2部リーグで、1部復帰を目指す。(森脇慎二 社会学類2年、写真も。8面に関連記事)

学びを生かし、球界変えたい

ソフトバンク新監督 工藤公康氏



インタビューに答える工藤氏(12月2日、総合研究棟Dで) ●田中開撮影

プロ野球ソフトバンクの監督に就任した筑波大学大学院の工藤公康氏(体育1年)が本紙の単独取材に応じた。筑波大でトレーニング方法を学んだ工藤氏は選手とコーチが適切なトレーニング法について知識を共有していることが大切。だが、野球界ではまだまだ共有ができていないと発言。この点については筑波大で学んだことを生かしながら「野球界で変えられるところは変えたい」と話した。工藤氏は「野球をする子どもへの予防を研究してきた工藤氏はトレーニング方法について「知識がない」と、正しいのか正しくないかの判断がつかないし、トレーニングを続けると、(自分が)どう成長するかもわからない」と指摘。プロ野球でも間違っていたトレーニングだけがを引退した選手が数多くいるとし、「野球界で自分を変えられるところは変えたい」と話した。工藤氏はプロ野球の西武やダイエー(現ソフトバンク)、巨人などで活躍。引退後は野球解説者として活動し、今春から筑波大学大学院に入学。人間総合科学研究所でスポーツ医学などを学んでおり、11月1日にソフトバンクの監督に就任した。

「利用状況を見て業者と交渉していく」と話している。公共浴場はこの半世紀、その多くが廃業に追い込まれて、一般家庭に給湯設備を圧迫している。(鈴木拓也 人文学類3年、齋藤優斗 社会学類1年)

今月、リニア中央新幹線の建設が始まる。時速500キロ。東京-大阪間を最短67分で結び、2027年には、そのうち東京-名古屋間が開業する。総費用9兆円の壮大なプロジェクト。リニアが通過する山梨、長野、岐阜県など、沿線住民の期待は大きい。山梨県出身である。それだけに、その期待感を身を持って感じてきた。同県の地元紙が県民100人に聞いたところ73人が「開業に期待する」と回答。「地方の活性化につながる」という意見も多い。東京まで最短34分となった岐阜県では「首都圏と一体となった経済圏を形成できる」と(経済界)と喜び、だが、リニアには課題が山積している。ルートの約86%はトンネルだ。その掘削で出る残土をどう処理するのか。沿線の河川の水量や生態系に影響を与える可能性もある。日本と同じくリニアの開発を進めてきたドイツが、実験線での死亡事故などを受け、11年には開発を中止したという事実も無視できない。半世紀前、東海道新幹線が開業した。世界で初めて時速200キロを超える速度で客を乗せた「夢の超特急」は、いまだに列車事故では乗客の死者を出していない。リニアがそうだった「安心感」を与えるためにも、計画を加速に進めるべきではない。時速500キロの超特急は魅力だ。だが、山積する課題をどうするのか。「見切り発車」にならないよう、熟慮が必要だ。

工藤氏は今春から通う筑波大学について、来年から休学することを明らかにした。現在研究中の「野球をする子どもへの予防」については「将来は、筑波大に戻ってきて研究したい」と話した。(鈴木拓也 人文学類3年、森脇慎二 社会学類2年、9面に工藤氏の経歴と関連記事)

出前公開講座が好評

大阪でも実施

五輪メダリストが授業

筑波大学の体育系の教員や学生が、全国各地を訪れ、スポーツ教室や講演会を行う「出前公開講座」を今年度から行っている。12月まで、佐賀県や福島県、大阪府で実施した。一流の指導者が訪れるため、地元住民から好評だという。出前公開講座を執り仕切る本間三和子教授(体育系・昭和61年度体育研究科修了)は「来年度以降も継続したい」と話している。(平嶋健人)社会学類3年、写真も



高校生に向けてスポーツ科学の講演をする本間教授(11月7日、咲くやこの花高校で)

これまで筑波大は一般市民の「公開講座」を実施して民や教職員向けに、芸術や科学などさまざまな内容「学施設内に限られていた」

「公開講座」を実施して民や教職員向けに、芸術や科学などさまざまな内容「学施設内に限られていた」

現地の教職員や高校生に好評だったという。体育系では今後も、岩手県や宮城県での実施を予定している。

11月7日には同講座の一環として、本間教授による講演会が、咲くやこの花高校(大阪市此花区)で行われた。

同教授は1984年のロサンゼルス五輪のシンクロダイビングで銅メダルを獲得。選手、指導者の

国際審判員としての経験をもちにスポーツ科学を研究している。当日は「スポーツ科学の知識を指導・練習に活かそう」をテーマに講演。同校でスポーツを重点的に学ぶ「スポーツ系列」の生徒約70人や付近の高校教員などが訪れ、最先端の研究内容やシンクロ日本代表のトレーニング方法、同教授の選手時代の経験談に聞き入っていた。

同校3年で、陸上が専門の佐藤楓さんは「どういふフォームなら速く走れるかなど、知的好奇心を持って日々の練習をする必要性を感じた」と感想を語った。

また、同校の平澤あずさ教諭(平成12年度体育専門学群卒)は「先端の研究に触れることで、勉強や部活動、大学進学に対する生徒のモチベーションを向上させることができた」と手応えを話した。

「バイオ燃料を作る藻類ポトリオコッカス」を培養する「藻類バイオマス・エネルギー大規模実証施設」(つくば市栗原)の一般公開が11月23日に行われた。来場者は顕微鏡で藻類の細胞の構造を観察したり、バイオ燃料の解説ヒ

ロボット倫理を考える

来年1月にシンポジウム開催



ポール准教授

関係者や、筑波大の専門家がパネリストとして参加。近未来のロボットと人間の関係のあり方について行政、産業、教育などの面から話し合う。

今回のシンポジウムはこれらの問題を総合的に話し合うもので、筑波大からは山崎嘉之教授(シス情系)、佐藤貴悦教授(人社会系)、仲田誠教授(同)が参加。一方、ドイツ側からは欧州連合(EU)の「政府」にあたる欧州委員会や、アドバイザーを務めた学識経験者や政府関係者、在日ドイツ大使館幹部のほか、ロボット企業の関係者も参加を予定している。

ポール准教授によると、日本とドイツは「技術立国」で、ロボットへの関心も高い。高齢化など同じ社会問題を抱えている。国際社会への影響力が強い。...

入江光輝准教授(生環系)らがチュニジアで行っている活動が、水不足の解決に貢献すると期待されている。同准教授らのグループは、ダムに堆積して貯水を妨げていた土砂を取り除き、住民が自由に使える水の量が限られている。一方、

同国は植物で覆われていない土地が多く、雨が降ると地表の土砂が流出。水資源の確保に不可欠なダムに土砂が溜まり、各地のダムの貯水効果が低下している。また、ダム建設に適した場所も少ないため、同国では水資源の確保が課題となっ

ていた。入江准教授は、ダムの貯水効果を高めるため、ダムに溜まった土砂に注目。湖底に溜まった土砂を取り除く。その土砂を使ってレンガを製造。建築材などとして販売。④販売利益で土砂を取り除く。...

入江准教授は「現地の研究者と連携を取るなどして、製品化を目指している。実用化されれば、水資源管理と地下水汚染の二つの問題が同時に解決できる」と話している。

同施設は、国内初の屋外大規模実証施設(つくば市栗原)の一般公開が11月23日に行われた。来場者は顕微鏡で藻類の細胞の構造を観察したり、バイオ燃料の解説ヒ

同施設は、国内初の屋外大規模実証施設(つくば市栗原)の一般公開が11月23日に行われた。来場者は顕微鏡で藻類の細胞の構造を観察したり、バイオ燃料の解説ヒ

同施設は、国内初の屋外大規模実証施設(つくば市栗原)の一般公開が11月23日に行われた。来場者は顕微鏡で藻類の細胞の構造を観察したり、バイオ燃料の解説ヒ



筑波大で実証実験を行った超小型モビリティ(11月20日、本部棟付近で)

鈴木勉教授(シス情系)らが、10月上旬から11月中旬、1〜2人乗りの電気自動車「超小型モビリティ」の実証実験を筑波大で行った。つくば市から借りたトヨタ製の1人乗り超小型モビリティ「COMS」(コムス)2台を使用。鈴木教授が開講する「都市・地域解析学」の受講生が主体となり、学内での活用法を提案するため、学内でのアンケート調査のほか職員や学生15人を対象に試乗会を行った。

超小型モビリティ 筑波大で実証実験

者や環境に優しい移動手段として国土交通省が導入を進めている。つくば市は同省の認可を得て今年1月から全国に先駆けて公道での実験を開始していた。

今回の実験に参加した大石根教授(生環系)は「屋外培養は猛暑や台風など天候の影響を受けやすいが、安定的に培養できるように、研究を進めたい」と話した。

一般公開に訪れた男性は「施設が本格的で驚いた。屋外での培養には困難な面も多くあるようだ。研究の進展に期待している」と話した。

下水に人体に悪影響を与えるフッ素が溶け込んでいる地域が多い。入江准教授は、ダムに溜まった土砂を原料にしたフィルターを開発。地下水を飲料水に変える安価なる過装置の実用化に向けた研究も続けている。同准教授は「現地の研究者と連携を取るなどして、製品化を目指している。実用化されれば、水資源管理と地下水汚染の二つの問題が同時に解決できる」と話している。

催事

応援部WINS第3回単独公演
筑波大学応援部WINS第3回単独公演「桐華祭」が来年1月23日(金)に「はかばか」(つくば市竹園)で開催される。主な演目は筑波大学応援歌「学生歌」常陸野の「ハーフトタイムショー」など。午後7時開演予定。入場料は無料。問い合わせ＝wins_tsukuba_cheer@yahoo.co.jp(筑波大学応援部WINS)

ピアノ愛好会ニューイヤークンサート
筑波大学ピアノ愛好会「ニューイヤークンサート」が来年1月24日(土)に「はかばか」(つくば市竹園)で開催される。クラシックピアノ曲をはじめ、オーケストラ曲のピアノアレンジや、ゲームBGMなど多種多様なプログラムを奏しめる。曲目は、ショパン作曲「スケルツォ第3番」、湯山昭お菓子の世界「お菓子の行進曲」ほか。午後6時30分開場、午後6時45分開演。入場料は無料。問い合わせ＝plover.tsukuba@gmail.com 詳細＝http://www.sfb.tsukuba.ac.jp/piano(筑波大学ピアノ愛好会ホームページ)

アカペラサークルDoo-Wop
アカペラサークルDoo-Wopのコンサート「Winter Live 2015」が来年1月25日(日)に「はかばか」(つくば市竹園)で開催される。今回のテーマは「Dream Night」で、邦楽や洋楽などさまざまなジャンルの曲を歌い上げる。午後5時40分開場、午後6時開演で、終演は午後8時30分。問い合わせ＝dw_winterlive@gmail.com

投稿募集
みなさまからのご意見をお待ちしております。
e-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp

多くの学生が「ぼっち」恐れる

「一人でいるのを見られたくない」

「ぼっち」という言葉が大学生を中心とする若者の間で頻りに使われている。「ひとりぼっち」の「ぼっち」で、一人でいる人を指す言葉。ツイッターには「ぼっち飯を食べる」「ぼっち飯」や「ぼっち飯」……などのつぶやきが並ぶ。「ぼっち」という言葉が急速に普及した背景は何だろうか。筑波大学などで取材した(鈴木木拓也、廣岡里穂)人文学類、林健太郎、平嶋健人)社会学類、添島香苗)生物学類)

「二人での食事は避ける」

筑波大生の声

筑波大生は「ぼっち」と「ぼっち飯」を指す言葉。ツイッターには「ぼっち飯を食べる」「ぼっち飯」や「ぼっち飯」……などのつぶやきが並ぶ。「ぼっち」という言葉が急速に普及した背景は何だろうか。筑波大学などで取材した(鈴木木拓也、廣岡里穂)人文学類、林健太郎、平嶋健人)社会学類、添島香苗)生物学類)

「ぼっち」という言葉が大学生を中心とする若者の間で頻りに使われている。「ひとりぼっち」の「ぼっち」で、一人でいる人を指す言葉。ツイッターには「ぼっち飯を食べる」「ぼっち飯」や「ぼっち飯」……などのつぶやきが並ぶ。「ぼっち」という言葉が急速に普及した背景は何だろうか。筑波大学などで取材した(鈴木木拓也、廣岡里穂)人文学類、林健太郎、平嶋健人)社会学類、添島香苗)生物学類)

周りの視線気にせず食事

ぼっち席



京大に導入された「ぼっち席」(11月7日、京大吉田キャンパスで) = 平嶋健人撮影

京都大学の吉田キャンパス(京都市左京区)の中央食堂には、テーブルの真ん中についたてを立てた一人用の席(横並び3人がけ)がある。「周りの視線が気にならない席がほしい」などの要望に応えたものだ。学生からは「ぼっち席」と呼ばれ、全国の大学にも広がっている。若者から支持を集める理由は何なのか。食堂を運営する同大の生活協同組合や学生へのインタビューを通じ、ぼっち席の効果を探った。

京都大学の吉田キャンパス(京都市左京区)の中央食堂には、テーブルの真ん中についたてを立てた一人用の席(横並び3人がけ)がある。「周りの視線が気にならない席がほしい」などの要望に応えたものだ。学生からは「ぼっち席」と呼ばれ、全国の大学にも広がっている。若者から支持を集める理由は何なのか。食堂を運営する同大の生活協同組合や学生へのインタビューを通じ、ぼっち席の効果を探った。

「ぼっち」という言葉が大学生を中心とする若者の間で頻りに使われている。「ひとりぼっち」の「ぼっち」で、一人でいる人を指す言葉。ツイッターには「ぼっち飯を食べる」「ぼっち飯」や「ぼっち飯」……などのつぶやきが並ぶ。「ぼっち」という言葉が急速に普及した背景は何だろうか。筑波大学などで取材した(鈴木木拓也、廣岡里穂)人文学類、林健太郎、平嶋健人)社会学類、添島香苗)生物学類)

留学生の声

筑波大の日本人学生から「ぼっち」という言葉が急速に普及した背景は何だろうか。筑波大学などで取材した(鈴木木拓也、廣岡里穂)人文学類、林健太郎、平嶋健人)社会学類、添島香苗)生物学類)



ツイッターには「ぼっち飯」などのつぶやきが並ぶ = 平嶋健人撮影

「一人でいることに抵抗ない」

留学生の声

筑波大の日本人学生から「ぼっち」という言葉が急速に普及した背景は何だろうか。筑波大学などで取材した(鈴木木拓也、廣岡里穂)人文学類、林健太郎、平嶋健人)社会学類、添島香苗)生物学類)

「団体行動が普通」

周囲の人の目よりも自分の気持ち優先して行動している。知り合いが多く利用している。韓国・男性(比文3年)

専門家の話

「ぼっち」という言葉が普及した背景や若者の人間関係について、社会学が専門の土井隆義教授(人文学類)に聞いた。

人に認められないと不安

「ぼっち」という言葉が普及した背景や若者の人間関係について、社会学が専門の土井隆義教授(人文学類)に聞いた。



「ぼっち」が普及した背景について語る土井教授(12月2日、土井教授の研究室で) = 廣岡里穂撮影

「ぼっち」という言葉が普及した背景や若者の人間関係について、社会学が専門の土井隆義教授(人文学類)に聞いた。

「ぼっち」という言葉が普及した背景や若者の人間関係について、社会学が専門の土井隆義教授(人文学類)に聞いた。

「ぼっち」という言葉が普及した背景や若者の人間関係について、社会学が専門の土井隆義教授(人文学類)に聞いた。

「ぼっち」という言葉が普及した背景や若者の人間関係について、社会学が専門の土井隆義教授(人文学類)に聞いた。

「ぼっち」という言葉が普及した背景や若者の人間関係について、社会学が専門の土井隆義教授(人文学類)に聞いた。

「ぼっち」という言葉が普及した背景や若者の人間関係について、社会学が専門の土井隆義教授(人文学類)に聞いた。

「ぼっち」という言葉が普及した背景や若者の人間関係について、社会学が専門の土井隆義教授(人文学類)に聞いた。

記者の声



市原ひかり

「おもてなし」の意味を考えた。一人で北海道を旅した際、数々の親切に出会った。一人で歩いた。

「おもてなし」の意味を考えた。一人で北海道を旅した際、数々の親切に出会った。一人で歩いた。この夏、一人で北海道を旅した際、数々の親切に出会った。一人で歩いた。

「おもてなし」の意味を考えた。一人で北海道を旅した際、数々の親切に出会った。一人で歩いた。この夏、一人で北海道を旅した際、数々の親切に出会った。一人で歩いた。

日本の「おもてなし」の心

対価を求めず、他者を思う

東京五輪招致では、「おもてなし」の言葉が一躍有名になった。日本に来る人に、心のこもった款待を行う……。いまその言葉は、日本の「心」として世界に知れ渡るまでになった。だが、日本独自の「おもてなし」とは一体何なのだろうか。無論、それは力ネにあかされた豪華な「接待」ではないだろう。また、それは外国、例えば英語圏のホスピタリティの心とどう違うのだろうか。「おもてなし」の心とどう違うのだろうか。

だが、同時に思い出し、それは、昨年夏、米国に行った時のことだ。旧友と再会したが、その家庭では毎朝昼晩、美味しい料理をたくさん作ってくれた。また、友達誕生日パーティーや、近所の観光地に連れて行って

「おもてなし」とは、どんなものだろうか。いや、それは果たしてあるのだろうか。千利休の教えの一つに、「降ろすとも傘の用意」という言葉がある。茶道を習う母が説明してくれたのだが、この場合

「おもてなし」とは、どんなものだろうか。いや、それは果たしてあるのだろうか。千利休の教えの一つに、「降ろすとも傘の用意」という言葉がある。茶道を習う母が説明してくれたのだが、この場合

「おもてなし」とは、どんなものだろうか。いや、それは果たしてあるのだろうか。千利休の教えの一つに、「降ろすとも傘の用意」という言葉がある。茶道を習う母が説明してくれたのだが、この場合

「おもてなし」とは、どんなものだろうか。いや、それは果たしてあるのだろうか。千利休の教えの一つに、「降ろすとも傘の用意」という言葉がある。茶道を習う母が説明してくれたのだが、この場合

筑波時評

大学の自治では警察の介入が話題になります。大学の自治は尊重されるべきです。真実を求める熱い想いを大学は守ります。違法行為はこの場所でも違法行為です。警察が介入する前に、「大

大学の自治は対話から 学生の熱い主張に期待

大学の自治では警察の介入が話題になります。大学の自治は尊重されるべきです。真実を求める熱い想いを大学は守ります。違法行為はこの場所でも違法行為です。警察が介入する前に、「大

大学の自治では警察の介入が話題になります。大学の自治は尊重されるべきです。真実を求める熱い想いを大学は守ります。違法行為はこの場所でも違法行為です。警察が介入する前に、「大

大学の自治では警察の介入が話題になります。大学の自治は尊重されるべきです。真実を求める熱い想いを大学は守ります。違法行為はこの場所でも違法行為です。警察が介入する前に、「大

大学の自治では警察の介入が話題になります。大学の自治は尊重されるべきです。真実を求める熱い想いを大学は守ります。違法行為はこの場所でも違法行為です。警察が介入する前に、「大

辻雄一郎 准教授 (公法学)
 人社会・准教授。京都大学法学研究科修士課程後、関西学院大学法学研究科博士取得退学。カトリック大学、パークレー校で法学修士と法学博士を修了。駿河台大学法学部准教授を経て、2013年から現職。専門は憲法、情報法、環境法。

一定程度、大学の自治が認められます。学生運動の経緯はみなさんご存知の通りです。他方で、学生運動の悲劇も見逃してはなりません。学生が統一的意思決定に従わない同胞を私的制裁にかけてしまったのです。大人の古きを嫌っているが

一定程度、大学の自治が認められます。学生運動の経緯はみなさんご存知の通りです。他方で、学生運動の悲劇も見逃してはなりません。学生が統一的意思決定に従わない同胞を私的制裁にかけてしまったのです。大人の古きを嫌っているが

一定程度、大学の自治が認められます。学生運動の経緯はみなさんご存知の通りです。他方で、学生運動の悲劇も見逃してはなりません。学生が統一的意思決定に従わない同胞を私的制裁にかけてしまったのです。大人の古きを嫌っているが

一定程度、大学の自治が認められます。学生運動の経緯はみなさんご存知の通りです。他方で、学生運動の悲劇も見逃してはなりません。学生が統一的意思決定に従わない同胞を私的制裁にかけてしまったのです。大人の古きを嫌っているが

一定程度、大学の自治が認められます。学生運動の経緯はみなさんご存知の通りです。他方で、学生運動の悲劇も見逃してはなりません。学生が統一的意思決定に従わない同胞を私的制裁にかけてしまったのです。大人の古きを嫌っているが

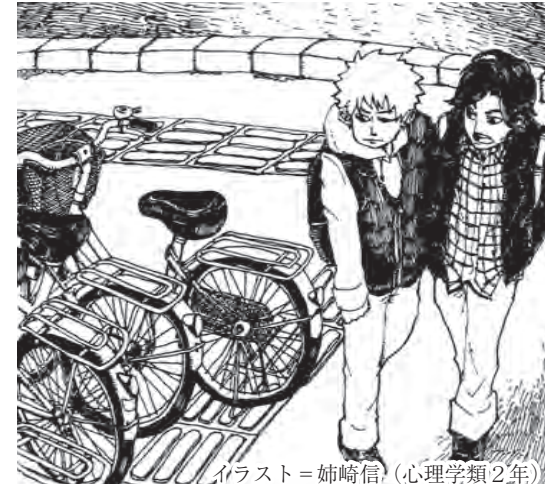
反射鏡

学内の自転車問題

「現年1年・女性」
 駐輪スペースの外に止め、自分で空いている場所にある自転車は邪魔だと思いが、自分で空いている場所

「現年2年・女性」
 駐輪スペースの外に止め、自分で空いている場所にある自転車は邪魔だと思いが、自分で空いている場所

「現年3年・女性」
 駐輪スペースの外に止め、自分で空いている場所にある自転車は邪魔だと思いが、自分で空いている場所



イラスト=姉崎信 (心理学類2年)

今年の「漢字」

2014年も残すところあと数週間。今年ほとんど一年だったのだろうか。毎年12月に発表される「今年の漢字」にならなくて、筑波大生に自分が思う「今年の漢字」を中央図書館周辺で聞いた。(加藤陽子 国際総合学類1年、田中開 教育学類1年、栗山菜帆子 障害科学類1年)

「拓」だと思ふ。入学し

「拓」だと思ふ。入学し

「拓」だと思ふ。入学し

「拓」だと思ふ。入学し

「拓」だと思ふ。入学し

土浦各流合同謡と仕舞の会 妖艶な舞で観客を魅了



舞を披露する能・狂言研究会の学生 (11月16日、亀城プラザで) = 筑波能・狂言研究会提供

能・狂言研究会が参加

土浦市やつくば市などで活動する能楽の団体が、流も出演し「紅葉狩」「宇治の晒」の2演目を披露した。「土浦各流合同謡と仕舞の会」が11月16日に亀城プラザ(茨城県土浦市)で行われ、能・狂言研究会は、平維茂の鬼退治を題材にした演目「紅葉狩」を披露した。通称、能は上演に1時間以上かかるが、今回は多く団体が出演できるように行と出合い、紅葉を染し

つづ宴を始める前半部と美女が鬼であることが判明し、維茂と鬼が激しい戦いを繰り広げる後半部に分かれる。今回は美女が紅葉を背に妖艶に舞うシーンを取り上げた。美女を演じた白井山貴さん(人文1年)は学園祭公演に続き2度目の「紅葉狩」となり、堂々とした舞で観客を魅了した。新入生が例年になく多く入部したこともあり、続く狂言の演目「宇治の晒」でも同イベント唯一の学生団体として若々しい能楽を披露した。「宇治の晒」を舞った代表者の渡部海音さん(人文2年)は、「能楽は難しく手が出にくいと思われがちだが、素人の大学生でも演じることが出来る。活動を通して、能楽を身近に感じてもらえるとうれしい」と語った。

(田中開)

MC展 制作の成果を発表

人間総合科学研究科博士前期課程芸術専攻で洋画、日本画、版画を学ぶ学生の作品を展示した第30回MC展が11月18-24日、茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開かれた。同展は日頃の制作・研究の成果を学外に発表し、今後の制作の糧にすることを目的としたもので、54作品が展示された。特に来場者の目を引いたのは、松井千夏さん(芸術



松井さんの作品「121」に見入る来場者 (11月19日、茨城県つくば美術館で)

1年生が落語を披露

工夫効かせ笑い誘う

落語研究会の口演会(第2回)の収穫祭が11月22日にテイスタウンつくば(つくば市竹園)内のイベントホールで開催された。10月の第1回公演に引き続き、1年生を中心とした活気ある落語で観客の笑いを誘った。落語では本題の演目に入る前に、「マクラ」という導入部がある。演目に関する話や小咄で観客を物語の荷を巡るトラブルを題材にした演目を披露した。代表の小林陽一郎さん(化学3年)は、「3年生が引退し、今回は1、2年生だけで運営したが、無事に終えることができた。今後多くの落語会を開いていきたい」と語った。同団体は1月17日にも、ノボホール(つくば市吾妻)で「お笑い科学万博15〜40周年記念ライブ」を開催する予定。

(田中開)

絶対音感

筑波大学ときめき太鼓塾の単独公演「颯奏」が、11月26日(つくばカピオ)つくば市竹園で開催された。同団体の単独公演は2年ぶり、筑波大生やつくば市民ら約200人が訪れた。

太鼓塾の演奏で使われる太鼓は主に3種類。最も音が高く、曲のペースメーカーである「地打ち」の役割を持つ「締め太鼓」。肩から担ぐこともできる「桶太鼓」。そして最も音が低い「長胴太鼓」だ。太鼓に加え、

信頼でつながる緻密な音楽

小さなシンバルのような打楽器「チャップ」や、音階を奏でる「篠笛」を組み合わせて曲を演奏する。篠笛を除き音階は無いが、太鼓の革を張る強さや使うバチの材質を調整することで、音程や音質を操る。第一部は長胴太鼓を中心とした、力強く荒々しい楽曲が続いた。4曲目の「三宅」は、二人一組となり、6人が3台の長胴太鼓を、両面から腰を低く落とした姿勢で、全身を使って叩く曲。長胴太鼓の軽快な地打ちを舞台上に、4分音符や8分音符に打たれたアクセント



「Queen」を演奏する菅原(右)と杉本(左) (11月26日、つくばカピオで)

つ団員の動きと、次々となだれ込む轟音の荒々しさは、会場を容赦なく飲み込み、圧倒した。太鼓塾の舞台に「指揮者」はいない。もし誰かのリズムが少しでもずれてしまえば、音楽はたちまち狂い出し崩壊する。しかし団員たちはフィロソフィと豊かな表情でリズムを保ち、緻密な音楽を奏でる。確かな信頼でつながった彼らだからこそ、心を通わせ呼吸をそろえ、一つの音楽を作り上げる事ができるのだ。そこには、力強さの中に不思議な安心感さえ覚える。第二部の幕開けは、この公演で太鼓塾を引退する3年生9人による曲「双飛」。軽やかな締め太鼓の16分音符に始まり、4人の女子団員が大空を羽ばたく鳥のように腕をならせ、桶太鼓を叩く。その優雅な演奏からは、太鼓塾から巣立つ未来へ羽ばたきとする姿が浮かび上がる。第二部の中盤では、1、2年生が沖繩民謡風の曲「アカバナ」を演奏。緊張混じりの若々しい演奏からは、次の世代を担う彼らの覚悟がにじむ。そして舞台はアンコール曲「Queen」へ移行。桶太鼓を担ぎ中央に立つのは、現塾長の杉本単(物理3年)と新塾長の菅原天真(社会学2年)だ。桶太鼓と長胴太鼓は符号8分音符を賑やかに



岡崎慎治 准教授(障害科学) 人間系・准教授。筑波大学大学院修了、2004年に筑波大学心理・心身障害教育相談室非常勤相談員、05年から筑波大学大学院人間総合科学研究科講師、12年から現職。

『しごとば』鈴木のりたけ著 (ブロンズ新社) 見ている職種も変わってきている。以前はしご職人(職種が好きというより、好き好きだけ)というものが、最近では理容師のページや、看護師(3冊目の『続々しごとば』に掲載されています)のページを見ているようです。本から得た知識を日常の遊びで生かしているようです。小学校入学前そのまま遊び、布団をかけたぬいぐるみを並べていただけでしたが、最近では診察から治療までを行っているようです。子どもが発達の過程だといえはそれなのですが、大人から見れば同じ内容でも、発達過程にある子どもの感じ方は、時間が経つうちに変わっていくことに気付きました。皆さんはどちらかといえは大人の視点でこの本を眺めるだろうと思いますが、機会があればぜひ手に取ってみてください。

大学のなかで行う相談や、学外の業務で幼稚園や保育所、小学校や中学校に行くことが多い。障害のある、ないし障害を疑われる子どもたちと接する機会が多くあります。一方、自分の子どもの世話をしている中で、自分の子どもと与えたい本が、仕事で接する子どもたちにも役立つと思ったり、自分にとっても示唆深いものだったりするところがあります。そのような本のひとつとして、この『しごとば』を紹介したいと思います。子どもが就労や職業を意識する

「リケジョ」の未来を問う

デザイン=姉崎信 (心理学類2年)



社会の活力に女性の力

内閣府の方針

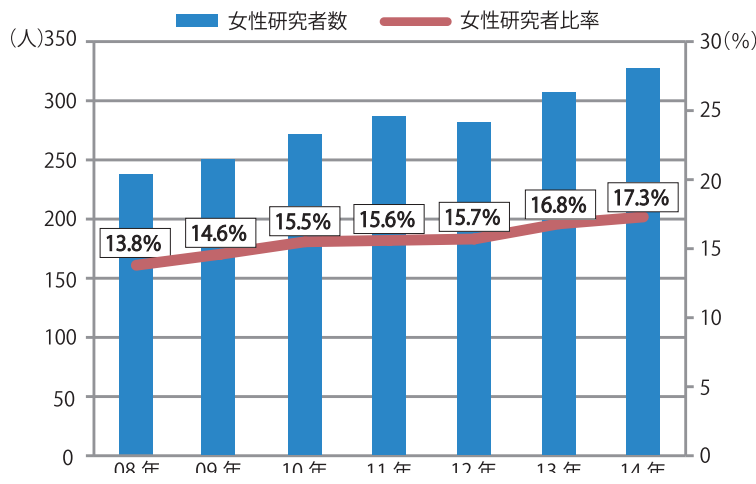
日本全体で見た女性の社会進出の現状とそれに対する国の方針はどのようなものなのか。内閣府男女共同参画局から文書で回答を得た。

——日本の女性の社会進出の状況と課題点は。内閣は、女性が自らの希望に応じ、家庭・地域・職場などで個性と能力を十分に発揮し、輝くことができ

望む女性への支援や非正規雇用で働く女性の処遇改善など、働きやすい環境を整備する。また、子育て後の再就職先も積極的に取り組んでいる。研究機関を対象に、重点的な経済支援を行う「ダイバシ

文部科学省をはじめ各省が支援を進めている。文科省では、女性が研究と出産・育児を両立できるように、積極的に関与している。研究機関を対象に、重点的な経済支援を行う「ダイバシ

筑波大学の女性研究者数・比率の推移



女性教員 20%が目標

筑波大学の女性研究者支援の中心が、「ダイバシ」だ。同推進室は、2008年に「男女共同参画推進室」として設置された。現在17・3%である女性教員の割合を、平成35年度までに20%にするという目標を掲げ、さまざまな取り組みを進めている。

ダイバシ推進室は多くの支援を行っている。例えば、出産・育児を行う教員は、研究にかかると負担がかかる負担を減らすために、研究補助者やベジシッターを雇うことができる。同推進室がこれらの費用の一部を負担し、研究と子育てを両立しやすい環境

さらに、全国の女子中高生を対象に、実験の体験や「リケジョ」との交流会を行う「女子中高生理系進路選択支援プログラム」を実施。また、大学院に入学する学生には、出産・育児と研究を両立する教員を紹介した冊子を配布する。

だが、庄司二子室長(人間系・教授)は「女性教員の割合(数値)の目標を立てているが、重要なのは大学や社会の意識が変わることだ」と語る。例えば、

筑波大の取り組み

女性の社会進出を促す声が目立つ中、大学・研究界では女性研究者育成に力を入れている。多くの研究者を輩出する筑波大学では「リケジョ」(理系女子)の育成に向け、何を行っているのだろうか。今後の女性研究者育成のあり方を取材した。(井口彩、新田明夏、平嶋健人、森脇慎二(社会学類)、田中開二(教育学類))

筑波大学の女性研究者支援の中心が、「ダイバシ」だ。同推進室は、2008年に「男女共同参画推進室」として設置された。現在17・3%である女性教員の割合を、平成35年度までに20%にするという目標を掲げ、さまざまな取り組みを進めている。

ダイバシ推進室は多くの支援を行っている。例えば、出産・育児を行う教員は、研究にかかると負担がかかる負担を減らすために、研究補助者やベジシッターを雇うことができる。同推進室がこれらの費用の一部を負担し、研究と子育てを両立しやすい環境

境を作っている。また、学内に「ゆりのき保育所」を開設している。研究者や博士課程の学生向けに、子育てや進路などの相談に乗る「ワーク・ライフ・バランス相談室」も設置している。

こうした活動の結果、女性教員の割合は、08年から14年の6年間で、3・5%増加した。また今年4月には厚生労働省から、仕事と育児の両立をしやすい環境と認められ、「るるみんマーク」を取得した。



樽川典子准教授

識者の分析

女性研究者の今後は

また、「女性の中に『リール』研究補助者を雇うための費用は男性に比べて高くなる」というような意識が残り、受け取りを希望する男性は非常に少ない。庄司室長は「男性が積極的にかかわることに、子育てに関わることに、社会の理解が十分でないのではないか」と分析する。

また、「女性の中に『リール』研究補助者を雇うための費用は男性に比べて高くなる」というような意識が残り、受け取りを希望する男性は非常に少ない。庄司室長は「男性が積極的にかかわることに、子育てに関わることに、社会の理解が十分でないのではないか」と分析する。

また、「女性の中に『リール』研究補助者を雇うための費用は男性に比べて高くなる」というような意識が残り、受け取りを希望する男性は非常に少ない。庄司室長は「男性が積極的にかかわることに、子育てに関わることに、社会の理解が十分でないのではないか」と分析する。



理工分野への関心を高めるサイト「理工チャレンジ」

研究者に焦点を当てると、従来は大学院の入学者と研究者の男女比に著しく差があった。女性が研究者になることに消極的な風潮があったり、「優秀な男性研究者がいることが学術的な権威」とする傾向が原因だとされる。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されたから、大学でも女性教員の育成推進などの

研究者に焦点を当てると、従来は大学院の入学者と研究者の男女比に著しく差があった。女性が研究者になることに消極的な風潮があったり、「優秀な男性研究者がいることが学術的な権威」とする傾向が原因だとされる。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されたから、大学でも女性教員の育成推進などの

訂正とおわび

先月号の筑波大学新聞第317号(11月4日付)では、誤報が2つありました。いずれも短い訂正記事では説明できない内容で、取材先をはじめ、ご迷惑をおかけした関係者の方々には、深くおわびいたします。

また、教員に対しては「伝える姿勢が感じられない」「下を向いて話さず、誤報が生じた経緯について検証した結果を、説明したい」と思っています。

(本紙編集代表・福原直樹(筑波大学教授))

訂正Ⅰ

7面の写真説明では、海後宗男准教授(人社会系)が「授業中のスマホ利用を禁止している」と記述しましたが、同准教授は基本的に授業で学生のスマホ利用を禁止しているわけではない。写真説明は事実ではありません。

訂正Ⅱ

6面の「教員の態度と相関関係」の記事で、安東恵美さん(教育4年)が教員に対して批判的であるとの印象を与える表現がありました。安東さんは教員の授業態度を批判したり、熱意の欠如を指摘しているわけではなく、文章の中に誤解を招く表現がありました。以下のように全記事を訂正いたします。

安東恵美さん(教育4年)は、卒業研究として「現代の大学生の主体的な授業参加をテーマに、

大学生の授業中におけるスマホの使用実態について調査している。

安東さんは7月から8月上旬にかけて39人に対し授業への意識や態度、期待などを聞いたアンケート調査を行った。その結果、全体の75%以上が「授業中にスマホを使用している」と答えた。

また、教員に対しては「伝える姿勢が感じられない」「下を向いて話さず、誤報が生じた経緯について検証した結果を、説明したい」と思っています。

(本紙編集代表・福原直樹(筑波大学教授))

訂正Ⅰ

7面の写真説明では、海後宗男准教授(人社会系)が「授業中のスマホ利用を禁止している」と記述しましたが、同准教授は基本的に授業で学生のスマホ利用を禁止しているわけではない。写真説明は事実ではありません。

訂正Ⅱ

6面の「教員の態度と相関関係」の記事で、安東恵美さん(教育4年)が教員に対して批判的であるとの印象を与える表現がありました。安東さんは教員の授業態度を批判したり、熱意の欠如を指摘しているわけではなく、文章の中に誤解を招く表現がありました。以下のように全記事を訂正いたします。

誤報の問題点

誤報はひとたび起きれば、いくらそれを訂正しても、後々まで取材先の社会的評価に影響したり、場合によっては人権侵害に発展する可能性があります。本紙は発行部数2万部以上。その責任は重大です。今回の問題を決して忘れることなく、より良い紙面を作りたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。

今回の訂正は二にも二にも、上記④の過程をきちんと踏まなかったために生じたものでした。

特に「訂正Ⅱ」の誤りは、取材先から誤りの指摘を受け、原稿を直していただいていたにもかかわらず、掲載されたかどうか、ゲラでの最終確認を怠った上、取材先の名前も誤って掲載してしまいました。また「訂正Ⅰ」は、写真説明について、取材先にきちんと確認を取らなかったため起きたものです。いずれも、初歩的なミス以外のなにものでもありません。

研究と家庭の両立は可能？



パパとママのチームワーク

育児を経験して

や家計が安定してきたので子どもを産むことに迷いは無かった」と話す。出産後8週間の休みを経験して研究に復帰。だが、育児は想像以上に厳しかった。夫が家事を担当する「ママの日」に平日を分け、旦那に子育ての責任を任せて、子どもの送り迎えや食事、洗濯などを行うことに決めた。「ママの日」には夫に育児を任せ、出産前の研究に没頭することは難しくなり、実験を続けるために研究にじっくり取り組む。研究も育児も両立する。研究と育児の両

立がしやすい、子どももパパの日とママの日それぞれを楽しんでいて、ママは海外出張で長期家を空ける時は、自分や夫の両親が子どもの面倒を見る。子どもが幼いころから家事や育児を手伝うシッターは、家族にとって大きな存在だ。「誰かに育児を任せる時の秘訣は、その人のやり方を尊重すること。自分のやり方と違う点があっても、それを尊重し、気持ちよく大事にしてくれる人が大事」と同准教授は話す。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。



紅葉を背景に、2人の娘とほほ笑む坂田准教授=本人提供

坂田准教授が第一子を出産したのは、大学院4年(30歳)の時。「ようやく研究員として自立し、生活が安定してきた」と話す。出産後8週間の休みを経験して研究に復帰。だが、育児は想像以上に厳しかった。夫が家事を担当する「ママの日」に平日を分け、旦那に子育ての責任を任せて、子どもの送り迎えや食事、洗濯などを行うことに決めた。「ママの日」には夫に育児を任せ、出産前の研究に没頭することは難しくなり、実験を続けるために研究にじっくり取り組む。研究も育児も両立する。研究と育児の両

立がしやすい、子どももパパの日とママの日それぞれを楽しんでいて、ママは海外出張で長期家を空ける時は、自分や夫の両親が子どもの面倒を見る。子どもが幼いころから家事や育児を手伝うシッターは、家族にとって大きな存在だ。「誰かに育児を任せる時の秘訣は、その人のやり方を尊重すること。自分のやり方と違う点があっても、それを尊重し、気持ちよく大事にしてくれる人が大事」と同准教授は話す。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。子どもが勉強する様子を見る。夕飯の準備・洗濯。寝付くまで付き添う。

HELLO! 先端科学

新井准教授(数物系)らの研究グループは、特定の細胞内に入ると緑色に発光する特殊な蛍光物質「ツクバグリーン」を開発した。

ツクバグリーンは特定の細胞に付着、内部に入り込むことで発光するようになる。ほかの蛍光物質と違い、遺伝子操作なしで導入できる。この蛍光物質は、がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

特定の細胞内に入ると緑色に発光する特殊な蛍光物質「ツクバグリーン」を開発した。医学や生物学では、特定の細胞を蛍光物質で「マーキング」し、観察しやすくなる。2008年にノーベル化学賞を受賞した下村脩氏らが発見した緑色蛍光タンパク質(GFP)もマーキングに使われる蛍光物質の一

ツクバグリーンは特定の細胞に付着、内部に入り込むことで発光するようになる。ほかの蛍光物質と違い、遺伝子操作なしで導入できる。この蛍光物質は、がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。

がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。がん研究への応用を目指す。



蛍光物質ツクバグリーンを研究する新井教授(11月28日、自然系学系C棟で)

他人の生きづらさ感じ

筑波大学新聞、こんな新聞があるなんて!。恥ずかしながら、今回の原稿の依頼を受けるまで、全く知りませんでした。せんえつながら、奇稿させていただきます。

私は、2004年に人間学類(現在の人間学群心理学類)に入学し、心理学や特別支援教育を学



弁護士 山田恵太さん

手紙

筑波大学新聞、こんな新聞があるなんて!。恥ずかしながら、今回の原稿の依頼を受けるまで、全く知りませんでした。せんえつながら、奇稿させていただきます。

私は、2004年に人間学類(現在の人間学群心理学類)に入学し、心理学や特別支援教育を学



筑波大学新聞、こんな新聞があるなんて!。恥ずかしながら、今回の原稿の依頼を受けるまで、全く知りませんでした。せんえつながら、奇稿させていただきます。

筑波大学新聞、こんな新聞があるなんて!

この時のジョロウグモは、網に落ち葉が引っかかった振動を、獲物だと勘違いしたらしい。落ち葉に襲いかかり、毒を注入しようと噛み付いた。しばらくすると、それが獲物ではないと気づき、落ち葉から離れた。秋は、巨大かつ最も複雑な構造をしたクモの網だと言われている。ジョロウグモの視覚は退化していて、獲物を捕まえる時には、網から伝わる振動に頼っている。

視点

11月の衆議院解散に伴い、女性活躍推進法案が廃案になった。これにより、女性が働きやすい環境づくりが大きく遅れる恐れがある。現在の情勢で女性の社会進出を推進するならば、固定観念が覆り、就職先が多様になる。国立大学の女性教員は2001年の約8%から13年までに約6%上昇したが、まだ約14%と低く、根強い支援が必要だ。

筑波大は他の国立大学より多くの人が、結婚や出産をきっかけに退職している。筑波大の取り組みが大学・研究界をリードするだけでなく、社会を動かすかもしれない。(森脇慎二 社会学類2年)

筑波大学新聞、こんな新聞があるなんて!

この時のジョロウグモは、網に落ち葉が引っかかった振動を、獲物だと勘違いしたらしい。落ち葉に襲いかかり、毒を注入しようと噛み付いた。しばらくすると、それが獲物ではないと気づき、落ち葉から離れた。秋は、巨大かつ最も複雑な構造をしたクモの網だと言われている。ジョロウグモの視覚は退化していて、獲物を捕まえる時には、網から伝わる振動に頼っている。

61年ぶりの大学日本一

笹山が最優秀選手賞受賞



満田丈太郎 (体専 2 年) が巧みなドリブルで攻め込む (11 月 30 日、東海大戦で)

バスケット

【国立代々木競技場第2体育館(東京都渋谷区)】で大西美雨II社会学類1年写真も。12面に関連写真も。大学日本一を決める全日本大学選手権の決勝戦が11月30日に行われ、筑波大は東海大に67-57で勝利し、前身の東京教育大時代を含めると61年ぶりの優勝を果たした。最優秀選手賞にはキャプテンの笹山貴哉(体専4年)、優秀選手賞には坂東拓(同4年)、杉浦佑成(同1年)が選ばれた。

順調に勝ち進んだ筑波大は、決勝で大会2連覇中の東海大と対戦。今季の公式戦で1勝2敗と負け越している相手だが、積極的に攻め、流れをつかんだ。筑波大は第1ピリオド、馬場雄大(同1年)のシュートで先制。中盤以降、東海大が巻き返してきたが、第2ピリオド終了時には30-19と、リードを広げた。

第3ピリオド序盤、東海大に3Pシュートを決められ、流れは東海大に傾き、開始4分まで同点に追いつかれた。だが馬場のシュートで勝ち越すと、その後も得点を重ねた。

第4ピリオドは、フリースローを確実に決め、最後は笹山のシュートで粘る東海大を振りきった。

坂東は「筑波大」としては初優勝で誇りに思う。周りの人への感謝の思いでいっぱいだと話した。吉田健司監督(体育系・准教授)は「全員で優勝をよかった」と語った。

信頼関係の強さを感じた

観戦記

全日本大学選手権の決勝戦で感じたのは、筑波大の上級生と下級生の信頼関係の強さだった。

決勝戦前の円陣では越智大輝(体専4年)が「なんとしてでも引っ張っていかから、ついてこい」とチームを鼓舞した。試合後、坂東拓(同4年)は「最上級生の自分たちが上を向いて引っ張っていかけてくれた。引いた」と振り返った。

日本一は先輩・後輩間でも目指してきた。61大会ぶりというところで、今までできなかったことを達成できてよかったと語った。

一方、下級生も上級生の思いに「坂東くんや笹山さん、周りの人に支えられてきた。先輩についていけば日本一になれると信じていた」と(馬場雄大II同1年)と奮起。1年生ながらスタメンで出場した馬場は、何度もリバウンドで東海大からボールを奪うなど貢献していた。

筑波大は今年、5月から6月にかけて行われた選手権大会で27年ぶりの準優勝を果たすなど躍進した。その理由の一つは、馬場や杉浦佑成(同1年)ら下級生の活躍だ。全日本大学選手権の試合後の記者会見で坂東は「勝ち続けるチームであってほしい」と後輩への思いを語った。思いを引き継いだ下級生の今後に注目したい。(大西美雨)

関東対抗戦5位 立教大には圧勝

ラグビー

【熊谷ラグビー場(埼玉県熊谷市)】で山辺拓実II社会学類1年、12面に関連写真も。関東大学対抗戦が9月13日から行われている。開幕から4連敗するなど不振が続いていた筑波大は、11月23日に立教大と対戦し、106-7で圧勝した。筑波大は12月4日現在、8チーム中5位と、昨年の3位には及んでいないが、大学選手権出場圏内を維持している。

熊谷ラグビー場(埼玉県熊谷市)で迎えた立教大戦は終始筑波大のペースだった。前半序盤の立教大の猛攻を防ぐと、8分に竹田拓将(体専3年)、11分に高屋直生(同1年)などが次々にトライを決めた。39分に取りこぼしたボールを立教大に奪われ失点したものの、44分に榊田優志(同3年)が得点を奪い返し、40-17で前半を終えた。

後半は開始早々に山内俊輝(同3年)がいきなりトライ。さらに猛攻を続け、2分に福岡堅樹(情科3年)、8分には橋本大吾(体専3年)がそれぞれトライを決めた。筑波大は攻撃の手を緩めず、15分には福岡がディフェンスの隙を突いてそのままゴールラインを越えた。22分に山本雄大(同1年)が得点を重ね、さらにリードを広げた。24分ごろから立教大にゴールまで迫られたが、すぐに体勢を立て直し、山本雄大(同3年)や福岡が立て続けにトライを決め、大勝利した。

試合後、古川拓生監督(体育系・准教授)は「今回の試合では、タックルで相手の選手を倒して攻撃を防いだ。日々タックルを重ねることに練習しているのだから、成果が表れた。けがをしていた主力選手が復帰し、チームに勢いが生まれている」と話した。

試合終了間際に逆転許す

関東大学サッカーリーグ



鋭いドリブルで相手を引き離す若杉(11月15日、中央大戦で)

【古河市立古河サッカー場(茨城県古河市)】で森脇慎II社会学類2年、写真も。中山雅史、井原正巳など、多くの日本代表選手を輩出してきた筑波大蹴球部の2部降格が決まった。残留圏内の10位で11月15日の最終節を迎えたが、残留を争う11位中央大との直接対決で、試合終了間際に勝ち越され、敗北。引き分けでも残留だったが、ピッチが荒れていた影響もあり、持ち味のパスサッカーを展開できなかった。

パスサッカー展開できず

筑波大は前半11分、ゴール前でフリーキックを獲得。4年が蹴ったボールがゴールで先制点を挙げた。手選手に当たり、オウンゴールで先制点を挙げた。

後半序盤は筑波大が主導権を握り、若杉拓哉(同3年)や中野誠也(同1年)ら前線の3人が立て続けにゴールに迫った。だが、追加点を奪えずにいると、23分、中央大のコーナーキックから失点。その後も激しい攻撃にあっただが、GKの岩脇力哉(同3年)や、主将のDF片岡爽(同4年)を中心に懸命に守った。

攻撃陣も残留を確実にするため、最後まで追加点を狙った。だが、後半アディショナルタイム、筑波大のゴール前上がった浮き球を相手FWが頭で触り、そのボールが岩脇の頭上を越え、1-2と逆転された。

試合終了間際は、全選手が相手陣内に入り、総攻撃を仕掛けたが結局報われず、降格が決まった。

指揮を執った小井土正亮ヘッドコーチ(体育系・助教)は「後半のチャンスで追加点を取れなかったのは痛かった。最後の失点は、はいという気持ちの甘さが出たのかもしれない」と悔しさをにじませた。

開幕ダッシュの失敗響く

記者の目

筑波大蹴球部は中央大戦で後半アディショナルタイムに決勝ゴールを許し、戦後初の2部リーグ降格が決まった。この結果を招いた最大の要因は、開幕ダッシュの失敗にある。

春に行われたリーグ前半戦は1勝8敗2引き分け、勝ち点はわずかに5と最下位に沈み、最終戦の第11節、流通経済大戦まで勝ち星を挙げることすらできなかった。中山雅雄監督(体育系・准教授)は「チャンスを作ることができていたが、それを生かすことができなかったのが大きな要因」と、開幕ダッシュの不振を振り返る。開幕ダッシュの不振が響き、降格を招いてしまった。また、残留を争っていた桐蔭横浜大と中央大に敗れるなど、勝負所で勝てなかったことも降格の大きな要因となった。

来季は戦後初めて2部で戦うことになるが、明確な材料もある。今季初めから活躍し、チーム最多の7得点を挙げたFWの中野誠也(体専1年)や、3試合連続ゴールを決めたMF戸嶋祥郎(同1年)、また守備の要となるGKの岩脇力哉(同3年)、センターバックを務めた早川史哉(同3年)と西村洋平(同3年)など、主力選手の多くがチームに残る。中央大戦後、小井土ヘッドは「来季の」1部復帰は目標ではないが「ルマ」と宣言し、中野誠也も「圧倒的な強さで1部に帰ってきたい」と力強く語った。その目はすでに前を向いている。

リーグでは柏レイソルやサンフレッチェ広島など2部に降格しても、それまでの自分たちのサッカーを信じて向上させ、1部で優勝する強豪に成長したチームもある。筑波大も、この降格を糧にして、パスをつないで試合の主権を握るサッカーを貫き、まずは1年での1部復帰というノルマを達成してほしい。その先には、今季のスローガンに掲げている「リーグ優勝、そして2003年以来となる大学日本一の奪還」が見えている。(森脇慎)



試合終了後、落胆した表情を浮かべる部員やポーター(11月15日、中央大戦で)

「関東大学サッカーリーグ19924年に創設されたア式蹴球東京リーグに前身。41年に関東大学リーグに名前を変え、戦中の休止後、46年に再開

全日本剣道選手権 竹ノ内 最年少優勝

デザイン=姉崎信(心理学類2年)

学生の優勝は43年ぶり

【ホテイメーカーコロシアム(大阪市浪速区)など】小野憲司(社会学類1年、写真)11月に行われた剣道の3つの大会で筑波大の活躍が続いた。全日本選手権では竹ノ内佑也(体専3年)が初出場で初優勝を果たした。21歳5カ月での優勝は史上最年少で、大学生の優勝も43年ぶりの快挙。また昨年は8強止まりだった全日本女子学生優勝大会は準優勝、全日本男子学生優勝大会では3位入賞した。

剣道部 活躍続く

■全日本選手権 剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日、日本武道館(東京都千代田区)で開催された。竹ノ内は決勝で、同じく初出場の國友錬太郎(福岡県警)と対戦。國友に一本も奪われることなく、竹ノ内が得意のメンを2本決め、優勝した。1本目は、両者競り合う中、國友の正面から堂々とメンを決めた。2本目は、國友が技を仕掛けた直後の隙を狙った会心のメンだった。竹ノ内は「優勝した実感

がわからない。本当に運が良かった。これまでの練習の成果が出たと思う」と安堵の表情を浮かべた。 鍋山隆弘監督(体育系・准教授)は「(社会人が出場する)全日本選手権は学生にとっては出場することすら難しい。竹ノ内は初出場ながらよくやった」と語った。



鋭く得意のメンを打ち込み、勝利する竹ノ内(右)(11月16日、全日本学生優勝大会で)

市総合体育館(愛知県春日井市)で開催された。筑波大は決勝進出を果たし、今年9月に関東大会決勝で敗れた法政大と対戦。法政大に一本も譲らず、大将戦まで1対1の引き分けに持ち込んだ。だが、代表戦で一本奪われ、筑波大は惜しくも準優勝となった。

■全日本学生優勝大会 学生剣道の男子団体日本一を決める全日本学生優勝大会が11月16日にホテイメーカーコロシアム(大阪市浪速区)で開催された。筑波大は序盤から順調に勝ち進んだが、準決勝の鹿屋体育大戦は接戦となった。序盤、筑波大は2本先取されるも、後半、副将の竹ノ内と大将の佐藤弘隆(体専4年)が巻き返し、

大将戦までの総取得本数が同数となった。最後の一本勝負で、竹ノ内がメンを奪われ、惜しくも決勝進出を逃し3位入賞となった。佐藤は「今回は日本一を逃してしまっただけで、後輩たちには来年、優勝を目指して頑張ってもらいたい」と語った。 鍋山監督も「大将戦まで引き分けだったのは痛恨のミス。あと二歩だっただけに惜しい」と振り返った。



今年11月の全日本剣道選手権で21歳5カ月の史上最年少優勝を果たした。学生の優勝も43年ぶりの快挙。社会人が多く出場し、学生が勝ちつらいといわれる全日本選手権。初出場ながら、決勝で鮮やかにメンを2本奪った竹ノ内は、日本の剣道界を席巻する。筑波大剣道部の要にして、日本剣道界のホープだ。 宮崎県出身で、3歳のころから剣道を始め、きつかけは、父が師範を務める近所の道場に連れて行ってもらったこと。あまり覚えていないが、足さばき(剣道の動作)を練習していたそうです」と振り返る。 稽

最後まであきらめない

もが非常に多い。それを知り、勉強し始めました。学会に行くこともあります。よく「投げ過ぎが原因なら、投げなければいい」といいます。でも投げなかつたら技術は向上しません。それならどうすればいいのかわからない。そのことをもっと研究したいと思っています。 (旅先の)お土産を渡し、月に一度くらい、食事会を開くこともあります。

監督就任の話は10月に王貞治ソフトバンク球団会長からありました。王会長とはタイエーで5年間やってきて、苦しいことも一緒に経験してきた。恩をいつか返さないといけないと思い、決断しました。

■学生へのメッセージ 応用力を身につけてほしい。例えば講義では、先生の話をただ聞くだけでなく、それを自分なりに考え、応用していくのが重要。自分の中の引き出しを広げて

全日本剣道選手権で史上最年少優勝 竹ノ内 佑也(体専3年)

「どんなに相手が強くても最後まで何が起きるかかわからない」。この精神が最後まで勝機を逃さず、彼を日本一へと導いた。自分の考えを貫く剣道も持ち味。「指導者から言われるままに練習するのではなく、自分なりに考えて実践することが大切」で「違和感があれば、その練習を拒む」こともある。

剣道をやる上で心の支えとなってきたのは、どんな時でも応援に駆けつけてくれる家族だ。「試合の度に来てくれる。いつも応援してくれて感謝している」と道場での険しい表情とは違った一面を見せる。全日本選手権の試合直前には、都合がつかず応援に来られなかった姉から、「頑張れ」と一言連絡があった。「試合をする上で励みになった」と話す。



応用力の重要性を語る工藤氏(12月2日、総合研究棟Dで) = 田中開撮影

今春から筑波大学大学院で学ぶ工藤康氏(体育1年)は、大学生活について「考えることが子どものころから好きなので、刺激的で楽しい。入学して良かった」と語った。また「講義で聞いた内容を、常に野球に応用することを考えている」といい、学生にも「応用力を身につけてほしい」と話した。工藤氏との1問1答は次の通り。

(鈴木拓也) 人文文学類3年

「応用力身につけて」

大学院への入学理由は、野球界では、けがのケアなどの面で、科学的なことはあまり普及していない。現役のころから、それを勉強して野球界に持ち込みたいと考えていました。 ベテランになればなるほど、そういう気持ちが強くなりました。そこで引退後、20代のころからトレーニングを指導してくれていた白木仁先生(体育系・教授)に相談し、入学しました。

筑波大の学生生活は、大学の近くに部屋を借り、自転車ですべてです。今は1週間に10コマほど授業を受けていて、授業の合間には復習をしています。特に解剖やトレーニングの授業が面白い。野球に関係ないことでも、野球にどう応用できるかを常に考えています。

学生との交流は、親子ほど年が離れていますが、同じ授業を受講している院生とは話したり、質問されることがあります。(旅先の)お土産を渡し、月に一度くらい、食事会を開くこともあります。

ソフトバンクの監督を引き受けたので、しばらくはできませんが、将来的には筑波大に戻って研究したい。

防についての研究を深めるつもりだったので迷いはありませんでした。

工藤康氏(こう・きみ) 1963年、愛知県生まれ、51歳。愛知・名古屋電気高(現愛工大名古屋)から82年にドラフト6位で西武に入団。95年にフリーエージェントでダイエー(現ソフトバンク)に入団。2000年に巨人に移籍した。11年に現役を引退。歴代1位の実績29年で通算224勝をマークした。引退後は野球解説者として活動し、人間総合科学研究所でスポーツ医学などを学ぶ。

記録ファイル ◆柔道 全日本体重別選手権(11月8-9日、千葉ポートアリーナ)【男子】90kg級 小林悠輔(体専3年) 3位【女子】52kg級 内尾真子(同1年) 3位◆オリエンタリング 全日本ミドルオリエンタリング大会(11月9日、埼玉真大里)【男子】▽M21A-1 田中基成(地球2年) 35分47秒 8位▽M21A-2 村瀬貴紀(同3年) 35分16秒 7位▽M20A 小林大悟(心理1年) 26分10秒 7位【女子】▽W20A 鈴木直美(地球1年) 28分16秒 2位◆ハンドボール 全日本学生選手権(11月22-26日、岐阜メモリアルセンター)【男子】筑波大42-19 環太平洋大短期大学部▽筑波大31-16 東北福祉大▽筑波大30-22 関西大▽筑波大17-19 大阪教育大▽3位▽優秀選手賞 林らる(体専4年) ◆バスケットボール 全日本大学選手権(11月24-29日、国立代々木木競技場第二体育館)【男子】▽筑波大76-70 立命館大▽筑波大73-51 中央大▽筑波大70-7白鷗大▽筑波大62-100 大阪人間科学大▽筑波大73-52 順天堂大 7位



要介護予防支援

茨城県内唯一の高齢者の町、大子町(茨城県北西部)...

住民を健康アドバイザーへ

「要介護予防」のための健康運動教室を開く。転倒しにくい歩き方や、健康診断の検査値の見方など、実用面を重視してさまざまな講義や実技を行っている。その知識や、やり方を指導してきたのは筑波大学だ。

主体的活動を支援



「大子町健康づくり講演会」で研究員から運動指導を受ける大子町住民=田中研究室提供

「アドバイザー」として養成する社会貢献プロジェクトを続けている。40〜80代の男女を対象に年に8回研修会を開き、6年間で計53人のアドバイザーを育成した。研修後、筆記試験に合格すれば正式にアドバイザーとして認定され、指導ができる。

留学生の目



ダウイト・フィセッハ

私の筑波大学での学生生活は、今までで最も記憶に残る時間です。家族と離れ、留学生として暮らすのは大変ですが、好意的で優しい社会に支えられ、私の日本での生活は想像したより素晴らしいものになっています。



日本は魅力的な国

また、日本の教育が高い水準にあることも分かりました。現代的な科学技術の設備に支えられた指導方法や、教育のレベルの高さで、右に出る国を決する効果的な方法を分析し、国際関係について多くのことを理解することができました。

「日本は、住んでいる人全員が充実した生活を送れる、安全で魅力的な国だと思います。筑波大に来た留学生が、快適な環境で暮らせることを願っています。」(国際総合学類3年・原文は英語)

福島にどんぐりを贈ろう

デザイン=姉崎信(心理学類2年)



被災地の子どもとどんぐりで遊ぶ佐藤さん(右)(11月25日、南相馬市鹿島保健センターで)=佐藤里美さん提供

医学医療系の災害精神支援講座と芸術系の創造的復興プロジェクト(CR)が、昨秋以来、福島県の子どもたちへどんぐりを送り続けている。放射能の影響で、という保護者の声に応えたもので、子どもたちは送られたどんぐりの感触に大喜び、どんぐりを使い、クリスマスの飾りなどを作ったという。

学生と被災地つなぐ

きっかけは、筑波大学で災害精神支援学を教える鈴木史良助教(医学医療系)が、月に一度訪れる「相馬広域こころのケアセンター」(福島県相馬市)で、NPO法人が設立した支援活動。震災後、「なごみ」では子どもたちの遊び場を提供してきたほか、精神科医らが育児相談も受けている。

きつかけは、筑波大学で災害精神支援学を教える鈴木史良助教(医学医療系)が、月に一度訪れる「相馬広域こころのケアセンター」(福島県相馬市)で、NPO法人が設立した支援活動。震災後、「なごみ」では子どもたちの遊び場を提供してきたほか、精神科医らが育児相談も受けている。



「スポーツチャンバラ」を楽しむ参加者(11月15日、陸上競技場で)

秋空の下スポーツ楽しむ

「例年以上の盛り上がり」第38回秋季スポーツ。11月15・16日に陸上競技場など学内20カ所以上で行われた。バレーボールや駅伝など事前登録が必要などがあり、絶好のスポーツ日和の中、多くの学生や教職員が汗を流した。

市民が科学について語り合うイベント「サイエンスカフェ」の開催なども予定している。つくば市から依頼を受けて、渡和由准教授(芸術系)らが同施設を含めた駅周辺の空間デザイン企画を担当した。同准教授の提案で、筑波大とつくば市のスペースの間には仕切りを設けず、一体感を持たせたり、壁面をガラス張りにするなど開放的なデザインを採用。同准教授は「通過するだけではなく、気軽に立ち寄り、リラックスできる交流の場にした」と話している。

BBCニュース放映

今年4月、第三エリア棟(3K棟)に設置された、イギリスのニュース番組「BBCワールドニュース」を放映するテレビモニターが好評だ。国際総合学類の教員が中心となって企画したもので、国際学を学ぶ同学類の象徴として注目されている。企画した教員(一人、前川啓治教授(人社系))は「大学の国際化を進めるため、学内のほかの教室棟や施設にもモニターを設置して共同利用してほしい」と話している。(井口彩二社会学類2年、写真も)

「国際学を学ぶ学生応援したい」

3K棟で



設置されたテレビモニターでBBCニュースを視聴する前川教授(11月20日、3K棟で)

「BBCワールドニュース」はイギリスの公共放送「BBC」が配信する。世界200以上の国や地域で視聴されている。玄関近くに設置されたテレビモニターで学生は常時、英語のニュースを見ることができ



11月23日につくば市で開催された「つくばマラソン」。曇一つない秋空の下、1万3763人のランナーが、紅葉に染まるつくば路を駆け、沿道で応援する市民に笑顔で手を振り応えた。(田中開二教育学類1年、写真も)

T・ACTの活動を報告

優秀な団体の表彰も

T・ACT(つくばアクションプロジェクト)の公開シンポジウムが、11月11日に大学会館で行われた。学生や教職員、地域の市民団体関係者など約100人が会場を訪れ、こ



「Women's Hackathon at Tsukuba」を企画し、最優秀賞を受賞した学生(11月11日、大学会館で)

れまでの企画が紹介された。今年度のT・ACTの上半期表彰式も行われ、合わせて9団体に表彰状と記念品が贈られた。T・ACTの企画紹介では、山下史雅さん(比文2年)が東北の被災地を訪問し被災者の話を聞く「み

にぶろー見に行こう、そして考えよう東北プロジェクト」の活動を報告。山下さんは「T・ACTで実際に行動することで、さまざまな人から感想や意見を聞いた。この経験を次の活動に生かしていきたい」と話した。

また表彰式では「Women's Hackathon at Tsukuba」が最優秀賞を受賞。同企画は、女子学生がアプリやWEBサービスなどの開発するのを手伝い、作成したアプリのアイデアを競う「ハッカソン」という催しを実施。T・ACT推進室によると「T・ACTは男性ばかり」というイメージを払拭したことが評価された。(山野拓実 写真も)

漕艇部部長の松井裕史講師(医学医療系)は「市民の人たちがボートに触れることで水に親しみ、風を感じつつ自然と運動できるきっかけになれば嬉しい」と語った。(田中開二)

ビジネスプランを発表

7月に開かれたビジネスコンテスト「Tsukuba Creative amp(TCC)」で入賞したビジネスプランの発表会が11月2日に大学会館で

行われた。優秀プランのプレゼンテーションのほか、LINE社社長の森川亮氏(昭和63年度情報学類卒業)と発表者のパネルディスカッションや、学生起業家

を支援する筑波大の取り組みの紹介も行われた。3人の発表者のうち、TCC進優勝の三井紳喜さん(生資4年)は廃棄される野菜を有効活用するビジネス

プランを考案。形や大きさが規格外のため、これまで廃棄されていた未利用農産物を小規模農家から買い取り、屋上で販売する安価な飲食店に卸す加工食品を作る...などとして活用するプランを発表した。現在、三井さんらのグループは、

つくば駅周辺や筑波大内などで販売活動を行っており、つくば市内でビジネスモデルを確立した後は全国展開も計画しているという。またパネルディスカッションでは、発表者の幼少期の夢や学生生活の過ごし方などについて話が交わされた。来年7月から有床診療所と有料老人ホームを始める予定の伊藤俊一郎さん(人間総合3年)は、起業する理由について「病院での勤務中に医療現場のあり方に問題を感じ、自分の手でなんとかしたいと感じた」と語った。

その後、国内の大学では初となるクラウドファン



「そっこのがうまさそう」

「え？」

「それくれ」

「つくば鳥人間の会」は、おそろいの「Tsukuba Birdman Works」(つくば鳥人間の会)のジャンパーを着た学生たちが集まっていた。工程表を読み上げこの日の作業を確認する目は、真剣そのものだった。

「鳥人間の会」は、1年間かけて人力飛行機を製作している。「鳥人間の会」は毎年7月に滋賀県の琵琶湖で行われる大会。飛行機には

つくば歳時記

探る 探る tanbō

中央図書館下通路には、おそろいの「Tsukuba Birdman Works」(つくば鳥人間の会)のジャンパーを着た学生たちが集まっていた。工程表を読み上げこの日の作業を確認する目は、真剣そのものだった。

鳥人間の会は、11月上旬、機体作りの最初の難所である「荷重試験」II写真IIが行われた。桁に人工的に負荷をかけ、折れたり異音が出ないかを確かめる作業で、異常があると機体作りを進められない。部員たちは長さ25びの桁に重りとなる水の入ったベックトボトルを取り付けていった。重りの合計は97キログラム。部員たちが固唾を飲んで見守る中、桁は見事なアーチを描いて静止。強度に問題が無いことが証明された。設計主任の藤原広太さん(工シ2年)は、「とても緊張した。これで安心して翼を作る工程に入れる」とほっとした表情を見せた。(山野拓実社会学類1年、写真も)

「荷重試験」に挑む



鳥人間の会は過去に23回出場している常連で、1キログラムを短時間で飛べるかを競う「一人力プロペラ機タイムトライアル部門」で2008年

つくば鳥人間の会

「鳥人間の会」は、1年間かけて人力飛行機を製作している。「鳥人間の会」は毎年7月に滋賀県の琵琶湖で行われる大会。飛行機には

書庫下の作業場で機体製作している。部員は2人で、部品の設計・作成機体の組み立てのほとんどを部員だけで行う。翼の骨組みに当たる「桁」

も気軽に参加できるように、レースには競技用のボートではなく、レクリエーション用の「ナックル」というボートを使用。参加者が4人1組でオールを漕ぎ、漕艇部員が舵をとって300びを漕ぎ速さを競う。

Who's Who?

『ジャンプスクエア』などで活躍中の漫画家

西尾 ナノラさん (芸専2年・PN)



新作の漫画の構成を考える西尾さん (11月22日、自宅兼仕事場で) 本人の意向で正面の写真は掲載できません。

2010年6月、16歳で『ヤカンのデッサン』でデビューし、人気雑誌『ジャンプスクエア』などに読切を4作掲載した漫画家。最近ではシリーズ小説のカバーイラストを担当するなど、活動の幅を広げている。愛用のシャーペンシルを使い、毎日絵を描いて過ごす。

幼いころから漫画に触れてきた。初めて漫画を読んだのは6歳の時、家にあった『スーパーマリオくん』(沢田ユキオ・小学館)だった。人気ゲーム『スーパーマリオシリーズ』の登場人物が纏り広げるギャグに「こんなに笑えるものがあったのか」と衝撃を受けた。

しばらくすると、登場人物を使ったオリジナルの話を考え、絵を描くようになった。幼稚園で先生に褒められたこともあり、描くことに熱中。実家で経営している旅館を継ぐことよりも好きなことを仕事にしたいと、漫画家を夢見るようになった。

デビューを目指す引き金となったのは「嫉妬心」だった。高校1年生の時、知り合いが漫画の新人賞を獲得したのを見て、「絶対自分の方が絵をうまく描けるのに」と嫉妬し、一念発起。周囲を説得し、1年で賞をもらえなければ漫画家を諦めるという条件で高校を休学し、『ジャンプスクエア』Supreme Comic大賞の入選を目指した。

しかし、これまで本格的に漫画を描いたことがなかったため、漫画用の原稿紙の使い方を知らなかった。そんな時に手を差し伸べてくれたのが、漫画家を目指す中で知り合った4歳上の友人だった。

「彼がいなければ、こうして漫画家になることはできなかったと思う」。賞の締め切り前は、二人で缶詰めになって漫画を描き続けた。そうしてできた処女作が『ヤカンのデッサン』。売れない漫画家「ヤカン」が、ある日

16歳で漫画家デビュー

「漫画は思いを届ける手紙」

突然しゃべり出したデッサン人形と隣の部屋の女の子と共に、漫画家として、そして人間として成長していく物語だ。この作品で同賞の最年少準入選を果たし、デビューした。

漫画家はデビュー後、ノイローゼになる人が多い。

担当の編集者から与えられる締め切りや、自分の理想と完成した漫画のギャップに苦しむためだ。西尾さんも他の新人同様、ノイローゼになった。デビュー後は高校に復学したため、学業にも追われた。

『僕の夏休み』『御手洗京子と矢くれた古代遺産』などの漫画を発表したが、忙しい日々の中で自分の描きたいことを見失い、漫画を描いても、雑誌に作品が掲載されても楽しさを感じなくなっていた。特に大学進学後は、ネーム(漫画の原案)すら描けなくなるスランプに陥ってしまった。漫画家を諦めることも考えた。

そんな時にも、『ヤカンのデッサン』

を描いた時に手伝ってくれた友人に支えられた。相談すると「読者に何を伝えたいのかを考えていない」と指摘され、自分のボツ原稿には話の筋が通っていないことに気付いた。

友人のアドバイスを受け、伝えたい一言が現れるシーンに向け、必要な人物や場面を積み上げるようにストーリーを考え始めた。すると漫画に筋道が通り、スランプを脱することができた。それだけでなく、「漫画の描き方がわかったよな気がして、描くのが楽しくなった」と笑う。現在は5作目の漫画を執筆している。

「漫画は作者が読者に伝えたい一言を届ける手紙。自分は絵を描くことしか取り柄がなく、伝えたい言葉を文章にしても読んでもらえない。けれど、漫画なら伝わる。」

漫画という手紙に託した彼の思いは、時代を超えて多くの人に届くことだろう。

(森脇慎二社会学類2年、写真も)

編集後記

今回のミニ特集は「ほっち」を取り上げました。過剰に空気を読み、一人になるのを恐れる現代の若者が……。インタビューなどを通じ、その実態の一端が見えました▼しかし、紙面を見て感じるのは、むしろ集団の絆です。61年ぶりの大団日本一に輝いた男子バスケット部。その勝利を間近で見た記者は「信頼関係の強さ」と一致団結を感じたと思います。優勝後にチームメ

次号は

1月26日(月)

発行予定です

ときめき太鼓塾単独公演



力強い太鼓の音を響かせる団員 (11月26日、つくばカピオで) = 原啓一郎撮影

5面へ

全日本大学選手権



優勝を喜び合う吉田監督(中央)とバスケット部の部員たち (11月30日、東海大戦で) = 大西美雨撮影

8面へ

関東大学対抗戦



ゴールラインに走りこむ山内俊輝 (11月23日、立教大戦で) = 山野拓実撮影

8面へ

水郷土浦・筑波レガッタ



声を掛け合ってオールを漕ぐ参加者 (11月8日、桜川で) = 田中開撮影

11面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活